

9 青少年補導状況

(単位:人)

区分	総数	怠学	飲酒	喫煙	深夜徘徊	暴走行為	不良交友	その他
小学生	-	-	-	-	-	-	-	-
中学生	29(8)	-	-	4(-)	24(8)	-	-	1(-)
高校生	247(38)	-	-	69(8)	170(23)	-	1(-)	1(-)
大学生	2(1)	6(6)	-	1(1)	1(-)	-	-	-
その他学生	3(1)	-	-	1(-)	2(1)	-	-	-
有職者	34(4)	-	-	14(1)	20(3)	-	-	-
無職者	67(12)	-	1(-)	19(3)	43(9)	2(-)	-	2(-)

注1)平成21年次常総警察署における常総市管内
注2) ()内は女子で, 内数

資料:常総警察署

出火原因は放火が最も多い

主な出火原因を見ると、放火、こんろ、たばこ、放火の疑いが上位1～4位となっており、若干の差をおいてたき火がこれに続く。2008年では「放火」による火災が6,396件で、全件数の12.2%を占めている。「放火の疑い」を含めると放火は全火災の20.6%にも上る。都道府県ごとの出火率(人口1万人当たりの出火件数)のデータを見ると、全国平均が4.12、高い所では5を超える値を出している中で、富山県と京都はそれぞれ2.06、2.28と非常に低い比率になっている。

救急搬送人員の半数以上は軽症傷病者

救急自動車の出場件数は著しい増加を続け、年間出場件数は2008年には約510万件(速報値)に上った。近年、現場到着所要時間が急激に延びているように見えるが、2007年から出場開始時刻の変更調整を行っている本部があるため、この影響を除くと2007年6.8分、2008年7.2分となる。「消防白書」には、実際に救急搬送された人のうち、入院加療を必要としない「軽症傷病者及びその他」の割合は51.8%に上るという報告が記載されている。このような出場要請は、119番へのいたずら通報と合わせ、救急車の適正な利用を妨げる重大な要因にもなっている。

(財)日本統計協会「統計でみる日本2010」より